

平成27年度
総合研究所 年次報告書



名桜大学
平成28年3月

— 総合研究所紹介 —

総合研究所は、外部の研究機関と連携しながら、主として沖縄県北部の学術振興や地域貢献を目的とし、1996年に開設された研究施設です。本学全教員が所員として所属し、言語文化・経営情報・観光環境・社会政策・健康科学・看護科学の6研究部門で構成されています。所員は、本研究所の研究助成、外部機関の研究助成（科学研究費、受託研究等）を受けて、研究活動を行っています。

また、情報発信として研究発表会・部門別シンポジウム・国際シンポジウムを積極的に開催しています。さらに所員の研究成果は、年1回発行される研究所紀要「総合研究」にて公表しています。

なお、本研究所の大会議室（1室、70名）と小会議室（1室、12名）は、研究目的以外に市民にも開放され、研修会や講習会の場として広く利用されています。



1. 運営に関すること

(1) 総合研究所 所内スタッフ (併任教員 2、専任職員 2・臨時職員 1)

所 長 田邊 勝義
 副所長 遠矢 英憲
 主 任 大城 章紀 (専任)
 主 任 新垣 直美 (専任)
 係 員 宮城 知佳 (臨時)

(2) 総合研究所 運営委員 13名 ※紀要委員 † () は運営委員ではない

委員長・副委員長：田邊 勝義 †・遠矢 英憲 †
 言語文化部門：与那覇恵子 ・小嶋 洋輔 †
 経営情報部門：宮平 栄治 †
 観光環境部門：鈴木 富之 ・柳 銀珠 †
 社会政策部門：李 鎮榮 ・嘉納 英明・(板山 勝樹 †)
 健康科学部門：山本 薫 ・大峰 光博 †
 看護科学部門：砂川 昌範 †・佐和田重信
 事務：大城 章紀 ・新垣 直美

(3) 総合研究所 外部研究員 10名 (客員 5・共同 5)

| 研究員氏名 | 研究員種別 | 研究テーマ・方法 |
|-------|-------|--|
| 中村 誠司 | 客員研究員 | やんばる地域の人分地理学地域研究、地域史 (自治体史・字誌) 研究 |
| 真喜屋尚美 | 客員研究員 | 沖縄県における診療情報管理士の役割 ～地域での活用をめざして～ |
| 上間 篤 | 客員研究員 | 中世の東西交渉史、中世今帰仁勢力の文化的性格 |
| 平良 一彦 | 客員研究員 | やんばる地域の長寿とライフスタイルに関する研究等 |
| 矢貫 卓博 | 客員研究員 | 地域クラブを媒体とした住民と学生のマッチング |
| 神田 佳代 | 共同研究員 | 女性の妊娠前腰痛について |
| 安和やよい | 共同研究員 | 直接占領下における沖縄の看護教育 ー沖縄県公文書館所蔵文書を用いての検討ー |
| 高橋 大介 | 共同研究員 | 素粒子・宇宙物理学 |
| 小田 五月 | 共同研究員 | 素粒子・宇宙物理学 |
| 余 京珍 | 共同研究員 | 名桜大学の総合研究所の地域コミュニティ施設としての役割について |

2. 地域貢献に関すること

(1) 部門別シンポジウム 5件 国際シンポジウム 1件

1) 総合研究所の部門によるシンポジウム（主催）

総合研究所には現在、6つの部門があり（言語文化・経営情報・社会政策・観光環境・健康科学・看護科学）、全教員がそれぞれ1部門に属しています。

平成27年度は5部門によるシンポジウム及び国際シンポジウムが開催されました。

1-1) 言語文化部門

移民・デカセギ・亡命・ホスト社会

ーラテンアメリカとアジアの事例からー

日時：平成27年6月6日（土）13：00～16：00

講師：アラセリ・ティナヘロ（シティーカレッジ・オブ・ニューヨーク 人文芸術学部 教授）

加藤 隆浩（南山大学 外国語学部 教授）

田島 久歳（城西国際大学 国際人文学部 教授）

酒井 アルベルト（琉球大学 法文学部 准教授）

住江 淳司（名桜大学 国際学群国際文化教育研究学系 教授）

李 鎮榮（名桜大学 国際学群国際文化教育研究学系 教授）

概要及び所感

学生をはじめ地域の方々、他大学の教職員など約300人の来場者がありました。前半に講師2人による基調講演、後半にパネリスト4人によるパネルディスカッションが行われました。アラセリ・ティナヘロ氏はアメリカ合衆国におけるキューバ移民について講演され、アメリカにいるキューバ移民が高額な国際電話料金を支払ったり、キューバに暮らす家族や親族に様々な物資を送ったりすることで、目に見えないかたちでキューバの経済を支えているとのことでした。加藤隆浩氏には、ペルー日系人に対するホスト社会の反応が時代とともに変化するその動態についてご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、田島久歳氏はブラジルが移民によって構成された国家であり、日系人を研究するにはホスト社会を知る必要があることを発表されました。住江淳司氏はロンドリーナ市の沖縄移民の歴史と文化包摂について発表されました。酒井アルベルト氏は多くの南米日系人が「デカセギ」として日本に在住しており、エスニック・メディアから「デカセギ」のモデル・ストーリーが読み取れることを発表されました。李鎮榮氏は韓国における華僑が国籍に関して困難な問題を抱えていることを発表されました。

それぞれ異なる地域についてのご発表でしたが、来場者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。時間が足りず、研究発表のみでディスカッションしていただけなかったことは残念でしたが、移民研究をさらに深めていくためにはホスト社会への視座が必要不可欠であり、これからの移民研究発展の可能性を示す、有意義なシンポジウムとなりました。



シンポジウムの様子

1-2) 経営情報部門

マイナンバーの勘どころ

－企業・個人がとるべき行動と対応－

日時：平成27年12月5日（土）13：00～16：10

講師：倉富 和幸（名護市役所総務部人事行政課ICT推進係）

古林 忠史

（NTTアドバンステクノロジー ネットワークソリューション事業本部セキュリティソリューションビジネスユニット）

飯田 剛史（社会保険労務士法人D・プロデュース）

概要及び所感

マイナンバーとは「社会保障・税番号制度」のことで、国民一人一人がもつ12桁の番号のことです。「マイナンバーの勘どころ」と題して経営情報部門シンポジウムを開催いたしました。

最初に名護市役所の倉富和幸様から「マイナンバー制度が始まるとどうなるの？」と題してマイナンバー制度の概要についてビデオを交えながら分かりやすく解説いただきました。2番目にNTTアドバンステクノロジーの古林忠史様から「マイナンバー時代の標的型攻撃の防御手段」と題してPCのデモを見ながら、思わず開きたくなるような内容のメールを送り添付ファイルを開かせてウィルスに感染させる手口の紹介がありました。3番目に社会保険労務士法人D・プロデュースの飯田剛史様から「企業がとるべき行動と対応方法について」と題して従業員からマイナンバーを収集する前に準備しなければならない4つの安全管理措置の説明があり、違反時には懲役刑を含む罰則があるとの説明がありました。

最後に、パネルディスカッションが行われ、会場の一般市民、学生や教員の方々から制度への対応方法や疑問点についての質問があり、講師の方々から回答がありました。特に従業員からマイナンバー提示の拒否があった時の対応方法など、企業の担当者の方にとって役に立つ情報を沢山聞くことができ有意義なシンポジウムとなりました。これから始まるマイナンバー制度の運用に際し、今後より理解を深め上手に制度に対応していく必要性を感じました。



シンポジウムの様子

1-3) 観光環境部門

バードウォッチングとエコツーリズム

～地域活性化と観光促進～

日時：平成27年9月23日（水）15：00～18：30

講師：樋口 広芳（慶應義塾大学大学院）

新垣 裕治（名桜大学国際学群）

嵩原 健二（沖縄野鳥研究会）

Lim Kim Seng（シンガポール自然協会）

Kyungwon Kim（韓国エコツーリズム協会）

Victor Yu（エコツーリズム台湾）

花井 正光（沖縄エコツーリズム推進協議会）

概要及び所感

70人程度と非常に多くの方々に参加していただきました。参加者は主に、エコツーリズム（以下E T）やバードウォッチング（以下BW）関係者であったと思われませんが、北部地域の観光協会の方々や行政、沖縄観光コンベンションビューローからの参加者もありました。

シンポジウムの運営については、本学学生がボランティア（3人）として関わり、会場の設営や片付等を担当しました。また、シンポジウムの逐次通訳（英語→日本語）は本学の語学教育専攻学生（2人）が担当しました。

基調講演の樋口先生には、野鳥の面白さと日本の鳥類、また、先生のこれまでの研究で取り組んでこられた渡り鳥等の講演をしていただきました。事例報告では、新垣が東南アジアでのBWの取り組みをマレーシアで行われたAsian Bird Fair大会での経験を通して講演しました。嵩原氏には、沖縄の鳥類の特徴と沖縄におけるBWの現状について講演をしていただきました。Lim氏には、シンガポールにおけるBWの現状と課題について講演していただきました。Kyungwon氏には、韓国でのBWと生息地の保全の取り組みについて講演をしていただきました。Victor氏には、E Tの推進にはE T協会等のN P Oと旅行社と協力が重要であるとの講演をしていただきました。

総合討論では、花井氏をコーディネーターとして、講演への質問や沖縄におけるBWを含めてのE Tの推進についての議論が交わされました。沖縄、台湾、韓国、シンガポールと国は違っても、BWやE Tの抱える問題は共通し、共同できる要素も多いことが分かったシンポジウムでした。



シンポジウムの様子

1-4) 看護科学部門

がんのリハビリテーション

ーがん看護の新たな潮流ー

日時：平成27年10月11日（日）13：30～16：40

講師：辻 哲也（慶応義塾大学医学部・医師）

神里みどり（沖縄県立看護大学・教授）

吉澤 龍太（那覇市立病院・がん専門看護師）

小橋川初美

（社会医療法人友愛会 南部病院・緩和ケア認定看護師・緩和ケア病棟師長）

概要及び所感

今や、がんは医療の進歩や早期発見・早期治療により「不治の病」から「共存」する時代に入り、がん体験者のQOLの向上が求められています。がんの治療で受けた身体や心のダメージに対して、がんのリハビリテーションを行うことで、回復力やQOLを高め、家庭や社会への復帰などが可能になってきました。そこで今回、がんのリハビリテーションの先駆者である辻哲也先生やがん看護の専門家をお招きし、がんのリハビリテーションにおける看護の役割機能を広く伝える機会としてシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、科学的エビデンスに基づく内容から看護実践まで幅広い講演内容に加え、涙をさそう事例紹介もあり、がんのリハビリテーションの重要性を伝える素晴らしい講演となりました。会場からは、多くの質問や意見が交わされ、中でもがん体験者が述べた「個別性のある支援の要望」は、がんのリハビリテーションへの期待や重要性を伝えるものとなりました。



シンポジウムの様子

1-5) 国際シンポジウム

ペルー、メキシコと日本・沖縄における交流の歴史・現在・未来

～環太平洋間交流のさらなる発展に向けて～

日時：平成28年2月18日（木）14：30～16：30

担当：総合研究所、上原なつき准教授

講師：パブロ・アラニバル（サンマルティンデポーレス大学）

大浦 敬文（沖縄メキシコ協会）

屋良健一郎（名桜大学 国際学群）

上原なつき（名桜大学 国際学群）

概要及び所感

シンポジウムに先立ち、名桜大学とサンマルティンデポーレス大学（ペルー）の大学間協定調印式が行われた。サンマルティンデポーレス大学にとってはアジアで初めての協定校が本学ということで、大変喜ばしい限りである。今回のシンポジウムは両大学の学術交流の第一歩となる記念すべきシンポジウムとなった。

中南米諸国の中でも特に環太平洋地域であるメキシコとペルーに焦点を当て、両国と日本・沖縄間における交流の歴史、経済交流、文化交流、人的交流について4名の

シンポジストにご発表いただいた。

各シンポジストの発表テーマは、屋良健一郎准教授（名桜大学国際学群）「近世日本の対外関係と慶長遣欧使節団」、パブロ・アラニバル氏（サンマルティンデポース大学教授）「日本ペルー経済連携協定」、大浦敬文氏（沖縄メキシコ協会会長、沖縄県空手古武術組合理事長）「沖縄とメキシコの空手交流」、上原なつき准教授（名桜大学国際学群）「転住・転移民からみるペルーとメキシコにおける沖縄移民」と多様なテーマであったが、両地域間における交流の歴史と現状を把握することで、今後のさらなる交流の発展について考える機会となった。

また、シンポジウムと同時開催の「日本メキシコ国交400周年支倉常長慶長遣欧使節団写真展」は、引き続き2月26日までサクラウム6階スカイホールBにて開催している。



シンポジウムの様子

1-6) 健康科学部門

健康づくりのための身体活動基準2013と身体活動指針（アクティブガイド）

糖尿病を身体活動、運動で予防・改善する

日時：平成28年3月26日（土）13：00～18：00

講師：仲地 健（医療法人翔南会 翔南病院副院長糖尿病・内分泌内科部長）

宮地 元彦（独立行政法人国立健康・栄養研究所健康増進部長）

長嶺 敦司（ハートライフクリニック）

（2）その他共催事業 2件

2-1) サンゴの移植⑩ –サンゴの移植活動のこれまでとこれから–

主催：沖縄美ら島財団総合研究センター

日時：平成27年12月3日（木）9：00～17：00

2-2) サンゴの分類と同定 2016

主催：沖縄美ら島財団総合研究センター

日時：平成28年3月17日（木）～3月20日（日）9：00～17：00

3. 研究に関すること

(1) 研究所助成金 15件

・一般研究 8 ・学際的共同プロジェクト研究 4 ・新規採用者助成 3

2-1) 一般研究 8件

- ① 研究代表者：渡慶次正則（言語文化部門）
共同研究者：ノーマン フィーウェル、メーガン クックルマン
名桜大学教養英語必修科目におけるEラーニング教材の効果と課題の検証
- ② 研究代表者：小嶋 洋輔（言語文化部門）
琉球弧における島尾敏雄受容史の構築
- ③ 研究代表者：田邊 勝義（経営情報部門）
台風災害リスクコミュニケーションのための浸水ハザードマップ構築に関する研究
- ④ 研究代表者：宮城 敏郎（社会政策部門）
共同研究者：伊良 皆啓、大谷健太郎
沖縄観光産業史に関する研究
～沖縄国際海洋博覧会閉会後の1985年から2000年までの沖縄観光を中心として～
- ⑤ 研究代表者：許 点淑（観光環境部門）
共同研究者：学外者
トランスナショナル・ファクターによる沖縄戦記憶の検証
－沖縄と朝鮮半島－
- ⑥ 研究代表者：平上久美子（看護科学部門）
共同研究者：鈴木 啓子、大城 凌子
“イマドキ”の看護大学生の抱える問題特性とその支援に関する研究
－大学教員へのインタビューを通して－
- ⑦ 研究代表者：鬼頭 和子（看護科学部門）
共同研究者：鈴木 啓子
精神科臨床実習において看護学生が触れるケアを実施する意義についての検討
- ⑧ 研究代表者：八田 早恵子（看護科学部門）
共同研究者：学外者
インドネシアの気になる子どもの基礎研究

2-2) 学際的共同プロジェクト研究 4件 (継続4件)

- ① 研究代表者：遠矢 英憲 (健康科学部門：H25～H27)
共同研究者：9名
マリンスポーツ安全教室を通じた海洋危険生物による刺咬症に対する
安全教育に関する研究
- ② 研究代表者：李 鎮榮 (社会政策部門：H26～H28)
共同研究者：4名
沖縄における貧困と格差に関する学際的研究
－沖縄本島を中心に－
- ③ 研究代表者：新垣 裕治 (観光環境部門：H26～H27)
共同研究者：4名
“やんばる”地域における外国人観光客受け入れ対応に関する調査研究
- ④ 研究代表者：奥本 正 (健康科学部門：H26～H28)
共同研究者：11名
自律促進型健康支援と健康な町づくり施策は住民の健康度を向上させるか

2-3) 新規採用者助成 3件

- ① 研究代表者：上原なつき (言語文化部門)
ペルーおよびスペインにおけるアニメーロの比較研究
- ② 研究代表者：メーガン クックルマン (言語文化部門)
Comics and Selfhood in the Poetry of Leslie Scalapino
- ③ 研究代表者：鈴木 富之 (観光環境部門)
沖縄県における産業観光の展開と観光客の受け入れ態勢に関する研究
－鉱工業を対象として－

(2) 出版助成金

出版助成金採択者：高嶺 司 (国際文化教育研究学系)
出版物の名称：日本の対中国関与政策－開発援助から見た日中関係

(3) 科学研究費助成事業

(補助金・学術研究助成基金助成金・一部基金) 32件

研究代表者 16件

- 1) 基盤研究C (24530189) H24～H27 基金 研究代表者：高嶺 司
対ベトナム援助政策および政策決定過程の研究

- 2) 基盤研究C (25340062) H25～H27 基金 研究代表者：田代 豊
琉球列島隆起サンゴ礁島嶼の環境特性に対応した有害物質汚染調査手法の開発
- 3) 基盤研究C (25350480) H25～H27 基金 研究代表者：松下 聖子
医療的ケアを要する在宅療養者とその家族への災害時の電源確保に関する支援体制の構築
- 4) 基盤研究C (25653345) H25～H27 基金 研究代表者：清水かおり
ICTを用いた離島・へき地看護職者への支援とネットワーク構築
- 5) 基盤研究C (26350840) H26～H29 基金 研究代表者：東恩納玲代
長寿県沖縄の復活に向けての基礎研究
－高齢者の身体活動状況，生活習慣，健康状態－
- 6) 基盤研究C (26370957) H26～H28 基金 研究代表者：李 鎮榮
韓国の華僑の社団の立て直しと関係の再生過程に関する動態的研究
- 7) 基盤研究C (26502011) H26～H28 基金 研究代表者：大城 凌子
「看取り難民ゼロ」を目指した住民参画型エンドオブライフケアに関する研究
- 8) 基盤研究C (26512015) H26～H28 基金 研究代表者：真喜屋美樹
在沖縄米軍基地跡地利用に関する研究：地域経済社会の接続可能な内発的發展を視座に
- 9) 基盤研究C (15K01885) H27～H29 基金 研究代表者：永田美和子
「認知症もナンノソノ」公民館を拠点とした地域住民が創る認知症ケアに関する研究
- 10) 基盤研究C (15K04509) H27～H29 基金 研究代表者：板山 勝樹
高等教育機関における人権教育についての基礎的研究種子島史料の研究
- 11) 若手B (26750247) H26～H28 基金 研究代表者：田原 亮二
スノーケリングを用いた水泳指導教材の開発と効果検証
- 12) 若手B (26750272) H26～H28 基金 研究代表者：石橋 千征
集団スポーツ競技の知覚－運動スキル獲得に貢献するパラメータの抽出
- 13) 若手B (26770225) H26～H29 基金 研究代表者：屋良健一郎
種子島史料の研究
- 14) 挑戦的萌芽研究 (24659966) H24～H27 基金 研究代表者：安和やよい
直接占領下における沖縄の看護教育
－沖縄県立公文書館所蔵文書をもちいての検討－

- 15) 挑戦的萌芽研究 (15K15809) H27～H29 基金 研究代表者：鈴木 啓子
精神疾患患者へのハンドマッサージを用いたケア技術の開発に関する研究
- 16) 挑戦的萌芽研究 (15K15865) H27～H29 基金 研究代表者：小西 清美
へき地における産後ケア促進のための産後院モデルシステム開発

研究分担者 16件

- 1) 基盤研究A (24249097) H24～H27 補助金 研究分担者：金城 祥教
卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究
- 2) 基盤研究A (25257009) H25～H27 補助金 研究分担者：菅野 敦志
日本の敗戦と新しい国境による台湾・沖縄の変容の後述歴史に基づく研究
- 3) 基盤研究A (26242013) H26～H29 補助金 研究分担者：小川寿美子
生涯学習基盤としての大規模オンラインコース (MOC) の構築と運用に関する研究
- 4) 基盤研究B (25293435) H25～H27 補助金 研究分担者：金城 祥教
看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究
- 5) 基盤研究B (25293435) H25～H27 補助金 研究分担者：伊礼 優
看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究
- 6) 基盤研究B (15H05150) H27～H29 補助金 研究分担者：山田 均
日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究
- 7) 基盤研究B (25301036) H25～H27 一部基金 研究分担者：仲尾次洋子
グローバル財務報告基準の導入効果と戦略的利用に関する国際比較調査研究
- 8) 基盤研究B (26301031) H26～H28 一部基金 研究分担者：田代 豊
迷惑施設をめぐる権利の正当性：日中での比較調査・実験・ゲーミングによる多角的検証
- 9) 基盤研究C (24530465) H24～H27 基金 研究分担者：大城美樹雄
沖縄におけるローカル企業の持続的競争優位構築プロセスに関する経営学的研究
- 10) 基盤研究C (25463436) H25～H27 基金 研究分担者：清水かおり
がん患者の苦痛症状緩和のための補完代替療法のエビデンスカードの開発と有効性の検討

- 11) 基盤研究C (25350769) H25～H27 基金 研究分担者：仲田 好邦
身体障害者のスポーツ施設環境における心理的及び身体的満足度に関する基礎的研究
- 12) 基盤研究C (26370570) H26～H29 基金 研究分担者：中村浩一郎
主節以外の文要素の左右周辺部構造と文法現象についての研究
- 13) 基盤研究C (26370665) H26～H28 基金 研究分担者：フィーエル ノーマン
Immediate Feedback And The Use Of Polling Systems For EFL Instruction
- 14) 基盤研究C (26350845) H26～H29 基金 研究分担者：東恩納玲代
青・壮年期における健康づくり行動のエコロジカル研究
- 15) 基盤研究C (15K11872) H27～H29 基金 研究分担者：島田 友子
野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援
- 16) 基盤研究C (15K11872) H27～H29 基金 研究分担者：吉岡 萌
野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援

(4) 厚生労働科学研究費補助金 1件

研究分担者 1件

厚生労働科学研究費補助金 研究分担者：金城やす子

健康日本21（第2次）に即した睡眠指針への改訂に資するための疫学研究

(5) 宇流麻学術研究助成基金 2件

- ① 海温水運動及びWATSUを組み合わせたプログラムが睡眠に及ぼす影響
研究代表者：本村 純（看護科学部門）
- ② アクティグラフを用いた生活リズム実態調査に基づく保健指導効果の検討
研究代表者：鯉渕乙登女（看護科学部門）

(6) 委託研究

サンゴ保全活動を利用したスポーツツーリズムの可能性

～石垣市における現状と新たな観光事業創出について～

研究代表者：遠矢 英憲（スポーツ健康学科）

(7) 総合研究所研究発表会

開催日：平成27年9月8日、9月15日

| | 研究代表者 | 研究テーマ |
|----|--------|--|
| 1 | 渡慶次正則 | 英語Can-doリストの作成による大学英語プログラムの構築 |
| 2 | 田邊 勝義 | 沖縄やんばる地域における台風被害と災害リスクコミュニケーションの研究 |
| 3 | 仲尾次洋子 | 会計基準のグローバル化と会計制度の構築に関する研究 －台湾の会計制度を中心として－ |
| 4 | 平野 貴也 | 競泳における選手と指導者の観察ポイントの違いに関する研究 |
| 5 | 東恩納玲代 | 健康日本21（第2次）における目標歩数達成者の特徴 －沖縄県北部在住高齢者を対象として－ |
| 6 | 永田美和子 | 沖縄県北部地域の高齢者を取り巻く健康支援に関する研究 －学生と教員および地域住民と協働で行う健康支援活動を通して－ |
| 7 | 平上久美子 | “イマドキ”看護大学生が大学生活を継続するために教員に求めるサポート －インタビューを通して明らかになったこと－ |
| 8 | 鬼頭 和子 | 健康な成人に対する足浴・足部マッサージのリラクゼーション効果の検討 －自律神経活動・気分への影響－ |
| 9 | 板山 勝樹 | 九州・沖縄における児童養護施設経験者の「高等教育へのアクセス」に関する調査報告 |
| 10 | 長谷川順一郎 | 沖縄県北部地域のホテルにおける大卒者の人材育成およびキャリア形成の現状と課題 |

(8) 総合研究所研修会

名桜大学コンプライアンス教育研修会

| | |
|----|--|
| 日時 | 平成27年6月26日（金） 13：30～14：30 |
| 場所 | 総合研究所研修会議室 |
| 内容 | ①不正防止に向けた取り組みについて ②不正分析と今後の予想 ③今年度の公的研究費の執行にあたって |
| 講師 | 三宮紀彦公認会計士・税理士事務所 三宮 紀彦氏 |

名桜大学研究倫理教育研修会

| | |
|----|--|
| 日時 | 平成27年12月8日（火） ①13：15～14：15 ②15：00～16：00 |
| 場所 | 総合研究所研修会議室 |
| 内容 | ①研究行為における責任 ②研究倫理について ③利益相反とその他不適切な行為 ④研究データの管理 |
| 講師 | 三宮紀彦公認会計士・税理士事務所 三宮 紀彦氏 |

名桜大学総合研究所運営委員会 活動状況

1) 構成委員名

- (1) 委員長：田邊 勝義
- (2) 副委員長：遠矢 英憲
- (3) 委員：与那覇恵子、小嶋 洋輔、宮平 栄治、李 鎮榮、嘉納 英明、
鈴木 富之、柳 銀珠、山本 薫、大峰 光博、砂川 昌範、
佐和田重信

2) 庶務担当部署：総合研究所

3) 委員会の主な所掌事項

名桜大学総合研究所規則

第3条 研究所は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 調査、研究
- (2) 研究資料、情報の収集、整理及び保管と公開
- (3) 調査・研究成果の発表及び資料の刊行
- (4) 国内外の研究機関及び研究者との交流並びに共同研究
- (5) 受託研究及び調査等、外部からの委託に基づく活動
- (6) 研究会、セミナー、シンポジウム、講演会、公開講座等の開催
- (7) 企業・団体又は一般社会人等に対する研修事業
- (8) その他、目的達成に必要と認められる事業

第15条 研究所の管理運営に関する重要事項は、教授会で審議する。

前項の重要事項には、次のものが含まれる。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 事業計画に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) 研究所の人事に関すること。

4-1) 委員会活動

| 回数 | 年 月 日 | 議題、内容等 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | 平成27(2015)年 4月30日(木) | 【議題】 1. 名桜大学総合研究所出版助成の公募について 2. 一般研究（採用歴2年以内）の応募方法及び内規について 3. 平成27年度前期運営委員会開催日程について 【報告】 1. 公益社団法人宇流麻学術研究助成基金について 2. 部門別シンポジウム及び国際シンポジウムについて |

| 回数 | 年 月 日 | 議題、内容等 |
|----|--------------------------|--|
| 2 | 平成27(2015)年 5月21日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新規採用者助成の審査依頼について 2. 一般研究の審査方法について（継続審議） <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究活動スタート支援申請について 2. 「研究費助成（民間助成、委託研究、その他の研究助成）」等、外部資金獲得状況報告書について 3. 平成27年度総合研究所紀要第25号について 4. 部門別シンポジウム及び国際シンポジウムについて |
| 3 | 平成27(2015)年 6月18日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新規採用者助成の採点結果について 2. 一般研究の審査方法について（継続審議） <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム等の懇親会に関する会計課の見解報告について 2. 平成27年度総合研究所紀要第25号について 3. 部門別シンポジウム及び国際シンポジウムについて |
| 4 | 平成27(2015)年 7月16日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般研究の審査方法について（継続審議） 2. 平成27年度総合研究所研究発表会及び学内科研費説明会の日程案について |
| 5 | 平成27(2015)年 9月24日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合研究所研究助成費の募集日程について 2. 平成27年度後期運営委員会開催日程について 3. サンゴシンポジウム及びサンゴワークショップへの共催依頼について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度科研費申請について |
| 6 | 平成27(2015)年 10月15日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学際的共同プロジェクト研究継続申請について 2. 平成28年度事業計画（案）について 3. 平成27年度第一次補正予算（案）について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部門別シンポジウム計画状況について 2. 出版助成について 3. 平成28年度科研費申請について |

| 回数 | 年 月 日 | 議題、内容等 |
|----|--------------------------|--|
| 7 | 平成27(2015)年 11月19日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出版助成金交付申請について 2. 総合研究所研究員新規申請について 3. 研究助成費の審査について (一般研究、学際的共同プロジェクト研究、新規採用者助成) <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度科研費申請状況について 2. 名桜大学研究倫理教育研修会について |
| 8 | 平成27(2015)年 12月17日(月) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度研究助成費の採点結果について (学際的共同プロジェクト研究、一般研究、新規採用者助成) 2. 学際的共同プロジェクト研究継続申請について 3. 受託研究の受入について 4. 国際シンポジウムの開催について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度総合研究所研究員新規申請及び継続申請について 2. 平成27年度計画に係る中間報告について 3. 名桜大学研究倫理教育研修会について |
| 9 | 平成28(2016)年 1月21日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度総合研究所研究員継続申請(案)について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度総合研究所概算要求書について 2. 所員総会について 3. 国際シンポジウムの開催について |
| 10 | 平成28(2016)年 2月18日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究資料等の保存の取扱について 2. 名桜大学総合研究所「研究スタートアップ支援」公募要項(案)について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度前期運営委員会開催日程について 2. 所員総会について 3. 国際シンポジウムの開催について |
| 11 | 平成28(2016)年 3月17日(木) | <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度総合研究所研究員新規申請について 2. 研究資料等の保存の取扱について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 名桜大学総合研究所「研究スタートアップ支援」公募要項(案)について 2. 平成27年度業務実績報告書(案)について |

名桜大学総合研究所紀要編集委員会 活動状況

1) 構成委員名

- (1) 委員長：田邊 勝義
- (2) 副委員長：遠矢 英憲
- (3) 委員：小嶋 洋輔、宮平 栄治、板山 勝樹、柳 銀珠、大峰 光博、
砂川 昌範

2) 庶務担当部署：総合研究所

3) 委員会の主な所掌事項

- (1) 紀要投稿論文の審査
- (2) 紀要の編集及び発行に関すること
- (3) その他紀要に関すること

4-1) 委員会活動

| 回数 | 年 月 日 | 議題、内容等 |
|----|-------------------------------------|---|
| 1 | 平成27(2015)年 4月30日(木) | 【議題】 1. 平成27年度総合研究所紀要編集・発行日程について 2. 名桜大学総合研究所紀要投稿規程の改正について 3. 平成27年度前期紀要編集委員会開催日程について 【報告】 1. 平成26年度総合研究所紀要の発行について |
| 2 | 平成27(2015)年 6月15日(月) ～18日(木) | 【議題】 E-mailによる持ち回り委員会 1. 「名桜大学総合研究No.25」(紀要)に係る投稿について |
| 3 | 平成27(2015)年 9月24日(木) ～25日(金) | 【議題】 E-mailによる持ち回り委員会 1. 「名桜大学総合研究No.25」(紀要)に係る投稿について |
| 4 | 平成27(2015)年 10月7日(木) | 【議題】 1. 平成27年度総合研究所紀要投稿論文のチェックについて |
| 5 | 平成27(2015)年 10月16日(金) | 【議題】 1. 平成27年度総合研究所紀要再投稿論文のチェックについて |
| 6 | 平成27(2015)年 10月16日(金) ～20日(火) | 【議題】 E-mailによる持ち回り委員会 1. 「名桜大学総合研究No.25」(紀要)掲載予定原稿の査読について |

編 集 後 記

名桜大学総合研究所『総合研究』第25号を発刊いたしました。研究所紀要と年次報告が一体化して発刊される形態も定着してきました。今年度は16件と紀要の分量が増えたのでボリューム有るものになりました。

今年度総合研究所では、国際シンポジウム1件、部門シンポジウム5件、そして共催活動として美ら島研究センターとサンゴに関するシンポジウム2件を開催致しました。出版助成では、今年度1件、来年度1件と着実に実績を積んでおります。この2年間力を入れて参りました研究助成では、今年度は一般研究8件、学際的共同プロジェクト4件、新規採用者助成3件の研究助成を行いました。外部資金では、科学研究費代表者16件と分担者16件、厚生労働省科学研究費分担者1件、宇流麻学術研究助成基金2件、観光事業活動研究会委託研究1件の外部資金を獲得しております。

一昨年来から世間で話題となっている研究活動の不正防止や研究倫理に係わる対策の実施について、総合研究所も文部科学省から「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に従って、不正行為を事前に防止し、公正な研究活動を推進するために研究者等に求められる倫理規範を各所員に習得して頂くための研究倫理教育の実施を求められております。これに伴い、科研受給対象者に向けたコンプライアンス研修会や名桜大学全教員に対する研究倫理教育研修会を実施いたしました。

そして、「公立大学法人名桜大学における研究活動等の不正防止に関する規程」について改正を行い、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」と「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に沿った規程整備を行いました。

人の移動プロジェクトに関しては、従来の5件に加え、沖縄地域の観光や経済に軸を置いたプロジェクトが1件追加されました。

また環境整備として、総合研究所会議室の音響関連の改修工事を実施し、より良い研究発表環境が整いました。皆様のご活用をお願いいたします。

これまで、大学内での研究助成件数の増加に尽力して参りましたので、更なる研究活動の進展を期待しております。所員の皆様には、これからも引き続き研究活動成果を論文にまとめて頂き、多くの論文を投稿して頂くようお願い申し上げます。総合研究所の紀要として質の高い論文が来年も発刊されることを祈念しております。

平成28年3月吉日

名桜大学総合研究所紀要編集委員会

委員長 田 邊 勝 義